

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100451		
法人名	有限会社絆		
事業所名	グループホーム絆 中ノ橋		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目13-10 2F		
自己評価作成日	令和2年10月8日	評価結果市町村受理日	令和3年5月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食の楽しみを持たせるように、食事やおやつに工夫を凝らしている。できるだけ、生活に必要な身体機能を低下させないように一日を過ごすことが出来る場を目指している。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、公官庁や商店街、銀行や企業、医療機関が立ち並ぶ街の中心地の7階建てのマンションの2階に位置している。マンションの住人は単身者で占められている。コロナ禍のなか外出がままならないが、利用者の大きな楽しみとなっている食事は、変化に富んだ献立をたてたり、手作りおやつに工夫により利用者の多くの笑顔を引き出している。近所に居住する住民が少なく、地域との交流の機会や連携がなかなか持てない状況だが、消防署との密な連携、自動通報の活用などにより利用者の安全確保に努めている。新人職員が多いなか、介護技術や身体拘束・虐待の防止等の研鑽に努めている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが ○ 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有の為、毎月の職員会議の中で職員による運営理念の唱和を行っている。	「人権を尊重し、能力に応じて可能な限り地域で、自分らしく自立した生活出来るよう支援」を理念とし、職員は利用者が嫌がることを行わない介護に努めている。	理念に基づく具体的な目標を職員の総意で設定し、業務の振返りを通じた介護サービスの向上を目指すことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中ノ橋1丁目町内会の組織が実際には存在せず、近隣町内会との連携も困難な状況にある為、管轄包括支援センターへ支援要請を出している。	市の中心地にあつて、商業施設や企業が近隣にある事業所で、居住する住民が少なく自治会が組織されておらず、地域との繋がりを持つことが難しい環境にある。コロナ禍以前は男性コーラスのボランティアなどとの交流もあったが今は難しい状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園児や一般ボランティアの来所が継続できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。運営推進会議への出席者は、地域包括支援センター(毎回出席)、利用者のご家族、職員である。出席者の方々と利用者に対するサービス内容の報告や問題点などの話し合いを行っている。コロナにより今期は開催できていないが書面で実施している為、ご家族様の意見や要望を聞くことが出来ている。	地域包括支援センターと利用者家族が委員となり、年6回会議を開催している。コロナ禍のため、今年度は文書により、利用者の状況を報告し、家族から意見要望を伺っている。家族からは毎月請求書と一緒に日々の生活の様子を教えて欲しいとの要望があり対応している。	運営推進会議に民生委員等の地域住民の参画をいただけるよう、引き続き関係機関を通じて働きかけるとともに、地域の社会資源にも目を向けることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録提出により、当グループホームの現状報告を行い協力関係を構築している。	要介護認定申請手続きの代行や運営推進会議の報告などで市役所に出向き、担当者と同様になり、情報収集したり助言指導も得て、良好な協力関係を作っている。また、分からないことがあれば電話での問い合わせにもすぐに対応してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議と併せ、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて正しい知識を深めている。	指針を作成し、毎月の職員会議に併せ委員会と研修を行っている。新人職員研修では、身体拘束の基本知識の習得に力を入れている。「利用者の話に付き合う」ことなどの徹底を図り、スピーチロック廃止を目指している。入居に際し、家族には身体拘束を行わないこと、事業所内で怪我をする場合もあることを伝え了承を得ている。エレベータホールへのドアは施錠していない。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送り打ち合わせや、月一の職員会議を通して高齢者虐待防止について確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様に、申し送りや職員会議の中で権利擁護に関する理解を確認し日々のケアに活用するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際にご家族へ適切な説明をし、不安や疑問点を解消できるよう説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時の家族から受けた意見、要望を受け、運営に反映している。	家族へは、書面開催している運営推進会議の資料や毎月発行する「絆だより」で生活状況の情報を提供しながら、意見要望を伺っている。利用者の日常生活の会話や表情から意向の把握に努めている。	利用者一人一人について、毎月発行している「絆だより」に介護職員が簡単なコメントを添えることにより、事業所と家族との関りが強まることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議を通し、職員の意見や提案を受け、運営に反映させている。また、管理者と職員との個人面談を随時行い、普段から意見交換ができる雰囲気作りに努めている。	毎日のミーティングや月1回の会議を通じ職員の意見要望を把握するとともに、不定期に法人の担当が面談して意見等を聴いている。管理者は職場内のコミュニケーションの在り方について、改めて検討したいとしている。	職員意見の把握とその具体化については、業務改善の一環にとどまらず、事業所運営に不可欠な総合的人事管理の一つと位置付け、職員との不断のコミュニケーションを重ねながら幅広い視点で進められることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況を把握しながら、労働時間、労働環境の整備に努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修のほかに、年間研修計画に基づき外部研修にも積極的に参加させ職員の介護ケア向上推進に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会やいきいき財団主催の研修参加を通して、同業者と交流する機会を設ける取り組みをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことや、要望等には応えるようにしているため、信頼関係が出来てきている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、利用者本人の希望に沿うことにより家族との信頼関係も構築できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要としていることを見極め、今現在対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の対応で過ごしている事で、良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望に応えると共に、家族様の都合や立場を考え支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	難しいことではあるが、なるべく知人の訪問などお勧めしている。	友人から、手紙やはがきが定期的に送られる利用者もがいたが、本人が返事を出したならず、いつの間にか疎遠になっている。コロナ禍の中、広報などを活用し家族に生活状況を情報提供しているものの、家族の面会や一緒の外出など自粛が続いている。2か月に一度の訪問理美容が新しい馴染みの人になっている。	コロナ禍収束を念頭に、一人一人の外出の縁となる「寄り道パターン」の作成を企画し、利用者の馴染みの場所や人、出来事を改めて把握し職員間で共有することを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を理解した上で、憩いの時間等の対応に工夫し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況変化に随時対応し、個々に適した行先の選択について情報提供に努め、相談支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向が確認できる範囲で、支援に努めている。	会話によりある程度意思表示ができる方は4人、会話のキャッチボールは難しいが「出かけた」「銀行に行きたい」などの意思表示ができる方が3人となっている。午睡の合間などを利用して利用者に寄り添い、会話やつぶやきから意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り職員全員がアセスメントを踏まえ、状況把握に努めている。そして、情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が業務内において、一人一人の状態観察を行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議とケアカンファを行い、現状に即した計画を作成している。	利用者の担当は決めていないが、職員がモニタリングを行い毎月の会議で見直し時期の近い利用者2、3人についてカンファレンスを実施し、6か月毎に計画を見直している。医師や看護師の助言、家族の意向を確認して計画を作成している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が業務内において、一人一人の状態観察を行い、職員間で情報共有し、計画の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスでは出来ないニーズに対して、サービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源がなかなか見つからず、協働できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による定期的な訪問診療の利用を基本としながら、個々のかかりつけ医との連携もできるような配慮している。	月1回の訪問診療利用者は5人、家族の付き添いによるかかりつけ医受診者は2人となっている。専門医の受診は、家族が付き添っている。訪問歯科は月1回、訪問看護ステーションの看護師が週1回(水曜日)来訪している。医師・家族・職員間で連携し、受診状況や健康状況の情報を交換している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報共有しながら、随時適切な対応が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や、相談に努め関係作りを行っている。		

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り加算対応はしないが看取りの経験はある。重度化の対応と併せて事業所でできることに対応し、必要に応じて家族と連絡をとり支援している。	重度化した場合の指針を作成し、入居時に家族に説明している。グループホームでの看取りを希望している方は今のところいないが、重度化した場合は家族の意向を改めて確認し、医療機関や他介護施設への利用等の支援をしている。	看取り希望者が今後入居し増加することも考えられることから、協力医療機関等の協力を得て、計画的に看取り研修を行うことが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所で出来る範囲の対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内研修に於いて、対応方法について全職員が研修している。地域との協力体制は構築できていない。	避難訓練は毎年、消防署立合いで1回、夜間想定で1回実施している。地域の協力が得られないなか、消防署への自動通報システムを通じ、通報5分で消防が到着できる体制にあることから、戸外への利用者の避難は消防署員が行うこととしている。ハザードマップでは水害指定区域外であるものの、避難所は城南小学校が指定されている。反射式ストーブ・ガスコンロ・水・食料などを備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性に合わせた言葉かけや対応をしている。	トイレ誘導への声かけは、方言やていねい語、気さくな声かけと利用者に合わせて声かけしている。広報への写真掲載は家族からの同意を得ており、プライバシーの確保にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性に合わせて、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの要望を優先し、希望に添った支援をしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重し、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強い出来ない為、利用者と職員と一緒に準備や片付けは出来ていない。	職員が献立を作り、食材はネットスーパーや配達で購入して調理している。クリスマスやお正月などの行事食を楽しんだり、ちらし寿司や赤飯・麺類など日々の献立に変化をつけている。どら焼きやネギ焼き等の手作りおやつを利用者は楽しみにしている。コロナ禍で外出等の制限がある中で、楽しい食事を提供することを重点の一つとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量を毎日記録し、良好な状態を保てるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の助言を受けながら、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できる方に対しては、自立に向けた支援を行い、自立出来ない方に対しては状態に応じた排泄支援を行っている。	排泄パターンをチェック表で把握した上で、利用者の「そわそわ」するなどの仕草を観察しながらトイレ誘導している。食事前の定時誘導はない。全員がリハビリパンツを利用し、うち5人はパットを併用している。夜間は2時間おきに巡回しているが無理なトイレ誘導はない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳酸菌飲料の提供、朝食のヨーグルト等提供で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に浴った支援はなかなか難しいが、拒否のある時は曜日・時間をずらして対応している。	毎週火・金曜日の週2回、午前中に入浴している。利用者は週2回入浴してしているが体調等により清拭や足浴、シャワー浴で対応している。利用者と職員の1対1の入浴しているので、リラックスして会話を楽しんでいる。入浴介助を皮膚病等の全身観察の貴重な機会としている。	



令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	居室に戻られてからの自由は確 保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	服薬がある方に対して、職員が 服薬支援を行い毎日の状態を観 察しているので症状の変化の確 認は出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	個人の嗜好品に対しては支援で きているが、外出による気分転 換等の支援は不十分だと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。 又、普段は行けないような場 所でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援して いる	歩ける方は外出しているが、自 分で歩けない方はなかなか外 出の機会が持てない状態であ る。	花見や紅葉狩りに出掛ける年 2回のドライブでは、利用者は 生き生きとして大いに楽しんで いたが、コロナ禍の現在、家 族との外出や散歩も含め難し くなっている。街中にあるメリ ットがある反面、屋上のない建 屋のため、散歩や施設内での 外気浴が思うに任せないこと をどのように克服するかが課題 としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している	お金の所持はしていないので、 使えるような支援はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援している	ご家族と電話で会話ができる ように支援している。手紙の やり取りもできている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル椅子の配置など工夫し、ゆったりと過ごせるよう支援している。	居室や浴室・トイレ・事務室に囲まれた中心に食堂兼居間の共用部分があり、食卓やソファが配置され利用者が自由にくつろぐことができる空間となっている。空調はエアコンで管理され、空気清浄機・加湿器が5台置かれ湿度管理がしっかりされている。白色の明るい壁に色紙で作った季節のリースがすっきりと飾られ、ゆったりと過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士が思い思いに過ごせる共用空間を提供し、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを居室に置くなどし、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	壁が白色の明るい雰囲気のある空間に、ベッド、タンス、クローゼット、時計、ナースコール、エアコンが備え付けられている。テレビなど、それぞれの意向に沿ったものを持ち込むなど、居心地がよくなるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立に向けての生活空間として、過ごせるように工夫している。		